

1 環境教育部会

試行実践に至った背景

環境教育の目的は、自らを取り巻くものとのつながりや関わりの教育であり、どう行動したらよいかを学び、つながりを再構築していくことまでであると考えます。

しかし、今日人間を取り巻く環境は地域社会のひずみが大きく、地球規模で激変しているといわれます。このため人間と環境との関わりを学習する環境教育の目標は、人間と環境の「相互作用」の視点や主体としての人間に着目することや、関わりの結果に着目することです。「為すことによって学ぶ、つまり参加型学習」で社会参加して行くことであり、同時に社会全体でその方法や成果を明確にしていく仕組みが必要となります。

札幌市においても、平成7年12月に「札幌市環境基本条例」を制定し、その中で環境教育・学習の推進について言及しており、事業計画を立て様々な事業を実施し推進に努めてきています。一方で、快適環境の保全・創出への市民ニーズの高まりを背景に、様々な地域住民の合意に基づく自主的な快適環境づくりへ向けての協働の必要性・そのあり方が語られる時期に来ていると思われる。地域・学校・家庭それぞれの役割や責任を明確にし、連携協力を図ると共に市民・事業者・行政との「協働」「分担」を重視するスタイルへの模索が不可欠になって来ていると考えます。

そこで当部会では、参加型の学びの場を通して、子どもを含む市民が元気になり、自分達が地域の主人公となっていくことが必要であると考え、以下の段階について検討しました。

市民自ら環境及び環境問題に「関心を持つ」 自発的な気づきへの導入と発見・発信

環境及び環境問題への「理解と認識を深める」 人材派遣制度などの施策の活用や情報の活用

環境問題解決のための「知識と実践方法を学ぶ」 市民の思い・アイデアを共有し解決への糸口を模索する

快適環境の保全、創出のための「行動に積極的に参加する」 地域から全市へと個々の行動を多くの人との共感・共有へと広がっていく仕組み

このようにして、「大人にも子どもにも楽しく環境教育を」をテーマに、試行活動の基点を設定し二つを実施することにしました。

試 行 実 践

1. 「公園」を基点に地域の身近な自然の発見



「これな～あに？」これはね・・・「ウワ - ！」



全体で振り返り

2. 「学校」を基点に人の営みにおけるゴミを考える



変わった授業に、わくわく・どきどき



親顔負けの真剣な買物姿 すごい！

二つの試行によって共通する提言

提言 1

環境教育を企画・実行できる人材の養成プログラムを含めた「環境教育実践プロジェクト」の設置を提言します。

環境教育・学習を進める「場を展開する」ファシリテーター、「場を調整する」コーディネーターの必要性を認識し、それぞれの実情にあった教育を実践するために、実施方法、実質的な成果などの評価手段が求められます。そのためには、市民・事業者・行政が一体となって、「協働」「分担」する場を設定すべきと考えます。

提言 2

環境教育に関わる市民自らが情報の発信・受信を格安で出来る制度の設定と随所に場所を提供する事を提言します。

環境に関わる多様な情報を市民で共有できる場が必要と考えます。そのためには、たとえば市民が利用する地下鉄駅構内等に「負担しやすい料金の広告スペース」を設ける事により、色々な活動が市民の目で評価・活用でき、また情報の共有化が図れると考えます。

「あなたのとなりの自然ウォッチング」：自然観察会

【実施目的】

地域の自然の「生」の姿を市民が自ら発見するための身近なインタープリター（自然案内人）の必要性や、四季を通じて自然の大切さを自ら発信するための仕掛けとそれを受け止める仕組みを検証しました。

【実施日時】2003年8月31日(日)午前10時～12時

【実施場所】西岡公園

【実施対象】市内在住の家族9組(26人)

【実施事項】

- ・ 札幌市環境教育リーダー派遣制度を活用し、3名のリーダーの協力を得て、自然観察会を実施しました。資料1-1
- ・ 実施公園周辺で広報活動を試み、地域の公共施設や商店に協力を呼び掛け、合わせて「広報さっぽろ」に掲載しました。
- ・ 導かれた「気づきの楽しさ」を今後も体験してもらえるように、自らの発見が実感できる「となりの自然手づくりノート」を作りました。資料1-2
「となりの自然手づくりノート」：西岡公園での四季の自然観察のポイントが書いてある小冊子。ポイントを探す楽しさと自分だけの発見を記入する欄やスタンプを捺印する欄が設けてあります。
- ・ 観察会当日の参加者にアンケートを実施しました。資料1-3

【達成できた点】

- ・ 家族での体験は、日常会話の中で共通の話題になるとして好評でした。
- ・ 3分野（植物と野鳥、植物と昆虫、川と水生生物）のリーダーが派遣され、観察会の各ルートで多様な体験ができました。
- ・ 「となりの自然手づくりノート」は発見の楽しさがありその後も好評でした。
- ・ 広報活動では地域の商店、公共施設や公園緑化協会の協力が得られました
- ・ 市民自らの発見の楽しさから、同じ場所で違う季節の開催にも参加したいという強い要望がありました。
- ・ 実施後も捺印スタンプを設置した管理事務所に、市民の来館が増えました。

【出来なかった点】

- ・ 「となりの自然手づくりノート」へ季節に応じてスタンプを捺印し、全て満たした人に「認定証」を発行するというしくみができればと考えました。
- ・ また、多くの市民に「となりの自然手づくりノート」のスタンプ制度を広めたかった。
- ・ 西岡公園周辺の身近な地域で広報活動を行い、その効果を検証したいと考えていたが、実際に参加してくれた家族は近隣の住民ではありませんでした。
- ・ 試行後に地域における協力への反響や効果等の聞き取りが不十分でした。

提 言

【提言 1】

市内の公園現場に掲示板を設置し、情報交換ができることを提言します。

苦情を寄せる参加から、公園をテーマに市民が互いに考えるきっかけが必要と考えます。利用する市民と管理者である行政の双方向の情報交換を進めることで、公園の維持管理における積極的な意見の反映と市民のあらたな行動を引き出すことができると考えます。

【提言 2】

各公園において市民自らが自然の発見を記入することで完成する「手づくりノート」など自然観察サポートグッズの推進と、「さっぽろ市自然達人」認定書の発行を提言します。

四季を通じて身近な公園との関わりをもてることで、継続した関わりを持つ市民の育成・発掘を目指すことができます。自然を発見する毎にスタンプを捺印し、ポイントを満たした者に対して、市長より認定証を交付することで、市民自治の促進に有効と考えます。

【提言 3】

公園における市民の利用、管理、促進のための基地としてのミニパークセンターの早期実現と、レンジャー登録制の開始を提言します。

緑の基本計画において取り上げられているパークセンター構想の実現に向け、経費削減のためハードとしては現在ある建物のリユースを提案します。ソフトとしては専門員を常駐させあわせて市民自らの気づきを発信参加するためのギャラリー（展示スペース）を維持し、レンジャーには、気づきや疑問と一緒に考えてくれるボランティア登録制を導入しレンジャーベストや腕章などの備品を配備することで市民運営を広報していきます。

各区が管轄する公園においても随時、利用運営とあわせた管理の担い手をレンジャー登録によって補い、地域環境の自治を促進することができます。

パークセンター：気軽に市民が参加し、公園の運営計画を話し合ったり、行事、イベントの企画準備、体験学習等の核となる施設。

レンジャー：国立公園，公立公園などの管理人

【提言 4】

環境プラザで行っている市の環境保全アドバイザー、環境教育リーダーの派遣などとパークセンター構想の連携体制の整備を提言します。

より市民の生活に身近な所に、すでにあるソフト施策の情報が行き渡ることで興味や関心を持った環境市民が生まれ、すでにあるハードの利用を促進することができます。

【提言 5】

札幌の「公園の質」を考えるきっかけに、各区役所と地域が共催する「公園まつり」の開催を提言します。

「公園」という身近な自然に、節度を持って接する市民を育成することが、より重要になると考えます。共通のテーマとアクティビティー（活動）以外は各公園の独自性をもたせた全市展開を行うことで、統一性がありながらも大都市札幌の多様な地域情報を束ねる事ができ、事業評価・検討が容易になると考えます。

あたしんちの買い物大作戦（買い物ゲーム）

【実施目的】

- ・ 日常的な買い物を通してゴミについて身近に取り組める環境教育を実施しました。
- ・ 実践をとおして親子で環境に関する共通の話題が出来、それぞれの目線で自らの考え、行動を生み出せるかを試みました。（アンケート集約）
- ・ 実施内容が学校、家庭、地域社会における<かけはし>となり広がる事を期待し、そのためには報道関係にも働きかけました。

【実施日時】 2003年12月4日（木）5校時～6校時

【実施場所】 札幌市立信濃小学校

【実施対象】 6年生 1クラス 38名

【実施事項】

- ・ 協力頂ける学校側との折衝、学校・PTA・部会との打ち合わせ
- ・ 事前にスーパーの展示用品を用意し、当日の役割を分担 資料1-4
- ・ 当日は模擬店舗を作りPTAの協力を得て実施
- ・ 報道関係へのニュースリリース
- ・ 1チーム5名に分かれ、カレーライスの食材をゴミを意識して決められた予算、時間内で、人数分を買い物し、順位を発表しました。 資料1-5
- ・ 物を買うことでゴミが生まれ、ゴミの流れを学習する事により現実を知り、減量に向けて知恵を出し合い、新たな行動に即活かす、日常の生活を意識した実践を行いました。 資料1-6
- ・ さらなる個々のアイデアはふりかえりシートに記入、参加のPTAにもアンケートで意見を提出願いました。 資料1-7

【達成できた点】

- ・ 実施することで、環境への関心が、身近なところから行動へと展開していく方向やアイデアが出ました。
- ・ 環境が日常の生活の中で親子での共通話題となりそうな意見がでました。
- ・ 色々な工夫で子ども達が飽きる事なく熱心に楽しんで最後まで実施できました。
- ・ テレビ局が一連の流れを撮り、ニュースとして取り上げ反響がありました。
- ・ 地域の商店や企業からは模擬店舗のための備品の貸し出しや商品の提供などの協力を得ました。

【できなかった点】

- ・ 企画段階からのPTAの参画を考えていたが、時間的に余裕がありませんでした。
- ・ 先生がたの意見・感想の聞き取りが不十分でした。

その他：模擬店のために準備した物が、一回で終了すると、ゴミになってしまい、他に活用が出来ない場合には、作業労力・時間など考えると、今後の検討課題です。

提 言

【提言 1】

手軽に実施できる環境教育プログラムの推進制度をつくり、機材や様々な情報を関係機関へ配布します。

また、実施後の次のステップや、アイデア実践を発表することで、水平展開を推進する運営主体の育成を提言します。

授業やPTA活動で使用できる環境教育プログラムのリストを作成し、教育委員会、市内学校のみならず、市PTA協議会、区PTA連合会、各校のPTA等へも配布することで、環境教育の実施を広く促すべきと考えます。実施するために、準備等にかかる費用・労力を軽減し、容易に実行できるための制度と運営する制度が必要となります。また実施したことが、今後の活動にも役立つ、つながることが大切です。

たとえば、すでに学校で試行されているフィフティフィフティ等に反映出来るような内容に持っていくなど、各学校現場での環境教育を支援・推進する運営主体の育成が必要と考えます。

注) フィフティフィフティとは？

札幌市では「光熱水費予算配当試行」として、平成15年度より試行対象校を36校(小学校26校、中学校10校)で実施されています。

これは、学校におけるエネルギー(電気・水道・ガス使用量・燃料費)の節約意識の高揚と、学校の自立性を高め、積極的に環境に配慮した学校運営を行うというものです。各試行校への配当予算に対して、上記項目のエネルギーの節約によって生じた余剰金の50%は、各校の裁量で使い道を執行することができるというものです。

【提言 2】

市民生活により近いところで「ミニ環境広場さっぽろ」を開催するためにも、学校施設を地域の拠点とし、利活用を広げるような規制改革を提言します。

市民(家庭)・事業者・行政が一体となって皆で問題の解決に向けた取り組みを検討し、より身近な所での共有化を図るため、「ミニ環境広場さっぽろ」の設定が必要と考えます。

学校生活や家庭における購入物の成り立ちやゴミのゆくえなど、社会のサイクルを<地域で小さく回す>発想を市民に持ってもらうためには、学校施設を積極的に地域へ開放し、容易に活用できることが重要と考えます。

注)「環境広場さっぽろ」とは？

札幌市では、「エコアクションさっぽろ」と題して平成10年より事業展開を続け、昨年では「環境広場さっぽろ2003～エコアクション&エコビジネス」と題してアクセスさっぽろにて開催しました。これは、「世界に誇れる環境の街さっぽろにします」をスローガンに、重点施策の一つとして「環境の保全と創造」を掲げ、環境問題への取り組みを推し進める環境イベントです。